

2. 地域の公共施設等における子ども読書活動の推進

子どもと保護者への取り組みの充実

NO.	事業名	事業内容	区分	状況	指標	平成22年度(2010年)実績		関係部局・団体
						実績	実施状況と課題	
20	豊中版ブックスタート事業「えほんはじめまして」	赤ちゃんにとって親子のふれあいや温かい語りかけが大切なこと、赤ちゃんと一緒に絵本を読み合う楽しさを伝える事業。図書館が子育て支援の場であることや利用の方法についても伝える。引き続き4か月児健診時、市内3カ所の会場で行う。絵本のリストや図書館の案内、子ども文庫のしおり等を配布する。また健診未受診者へ「えほんはじめまして」の資料を配布するなど、状況に応じて働きかけを行う。 [123にも掲載しています。]	継続	○	受診者数 / 受診率	3,427人 94.4%	乳幼児と絵本を楽しむことへ関心を持ってもらえ、図書館が子育て支援の場であることも認知されてきた。本の借り出しやおはなし会等図書館の利用につながっている。一方で居宅親子への支援のあり方等課題も見えてきた。平成22年度は会場でのスタッフによる声掛け集をまとめ、共通認識を高めることに努めた。	○市立図書館健康支援室 豊中子ども文庫連絡会
21	乳幼児向けおはなし会「ほっとタイム」年齢別ほっとタイム「うきうきタイム」	「ほっとタイム」ではプレイルームに来館した0歳～就学前の子どもと保護者を対象に、あそびを提供し、気軽に参加してもらい、子ども同士や保護者同士の仲間作りの場で絵本の読み聞かせや年齢にあった絵本の紹介を行う。またこれらの事業を年齢別に行う「うきうきタイム」もあわせて実施する。	継続	○	実施回数 / 人数	センター 422回 4,027組 8,621人 ほっぺ 56回 1,343組 2,803人	10月より地域子育て支援センターが7カ所増設。全センターでお話会が実施される。年間の予定は情報誌「てくてく」で、ホームページや携帯配信での定期的な情報発信を行い、回を重ねることにお話会を楽しみに参加される方が増えてきた。読み手も保育士から保護者にさせていただくことで、“してもらう”から“してあげる”という形態に変えていくことで、絵本を通して保護者の子育て力の向上につなげていけるような取り組みが少しずつ出来るようになってきた。	子育て支援センター
22	親と子の遊びのひろば「パンダグループ」「こぐまグループ」	「パンダグループ」では2・3歳の子どもとその保護者を対象に、あそびや情報の提供をする中で保護者同士が子育ての楽しさを実感したり、悩みを出し合い、地域の中でつながる機会となっている。また「こぐまグループ」は1歳6か月から2歳未満の子どもと保護者を対象に遊びや情報提供を行っている。これらの取り組みの場で絵本の読み聞かせや年齢にあった絵本の紹介を行う。	継続	○	実施回数 / 人数	パンダ 488回 10,096人 こぐま 176回 4,360人	絵本の読み聞かせ(保育士・保護者)は充実している。絵本や紙芝居の内容も保護者同士で相談し工夫を凝らして披露してくれるので子どもたちも喜んでみている。その子どもが喜ぶ姿を見て、保護者も自信を持ちつながっていきけるきっかけづくりになっている。目的や内容に合わせた絵本を提供して会を重ねることで絵本を見る雰囲気や期待感が出てきた。パンダは年齢に幅があるので参加児の様子に合わせた内容を選び絵本に親しみやすい工夫をおこなっている。保護者同士が子どもの好きな絵本を紹介しあい、保護者が仲良くつながっていきけるような機会も作っている。	子育て支援センター
23	「出前講座」	地域の子育てサロン・子育てサークル等に出向き、遊び提供の場での読書活動(絵本・紙芝居・ペープサート・パネルシアター等)を推進する。	継続	○	実施回数	631回 9,069組 19,353人	公園・サロン・サークル・午後の幼稚園・小学校の空き室など、居宅の親子が出向きやすい場所で読み聞かせができる機会を多く作り実施した。	子育て支援センター

NO.	事業名	事業内容	区分	状況	指標	平成22年度(2010年)実績		関係部局・団体
						実績	実施状況と課題	
24	「センター講座」 「ほっぺ講座」	子育て支援センターで、保護者向けに子どもの読書の楽しさ、大切さを伝える講座を行う。各センターの講座に参加することで職員の研修として活用する。また課題などについてセンター間で情報を共有し、事業点検を行う。	継続	○	保護者向け講座実施回数	センター48回 594組 1,263人 ほっぺ13回 195組 410人	講座に対しての保護者のニーズは高く、実施するセンターも増えてきた。今年度は「子育ての中に絵本を」「親子で絵本を楽しもう。0才児対象・1歳児対象」年齢別であったり、大人向けに「親子での楽しいひと時を持つ」というなど、読み聞かせや絵本の紹介だけでなく、テーマや講座のねらいが広がり、内容も深まってきている。保護者の感想より「絵本の紹介や絵本の選び方、読み聞かせ方など教えていただいたよかった」「絵本に親しむきっかけづくりになった」「専門家の意見に触れる機会になった」と好評である。	○子育て支援センター 市立図書館
25	「子育て総合支援事業」	子育て・子育て支援講座や育児相談事業の中で、子どもと本に関する講演会や相談を行う。 全市立幼稚園(7園)実施	継続	○	実施回数 / 参加者人数	4回 83人	絵本の楽しさを大人自身が実感できる講座として好評である。講師のゆったりとしたよみかきかせに、ほっとできる時間ですという感想あり。	幼児教育支援センターたんぼぼ
26	フリースペース	就学前の親子を対象に週2回、親子でくつろげる場を提供する。また、毎回絵本の読み聞かせやエプロンシアターなどを行う。	継続	○	実施回数 / 参加者人数	97回 3,483人	1～2歳児の親子が多いのでわかりやすく絵の大きな絵本を選ぶことが多い。毎回読むことでいろいろな絵本に親しみ、みんなで聞くという経験にもなっている。	幼児教育支援センターたんぼぼ
27	親子たんぼぼ体験教室	未就園児の親子を対象とするプログラムで毎回絵本の読み聞かせを行う。(てしま幼稚園としんでん幼稚園で実施)	継続	○	実施回数 / 参加者人数	70組 10回 ×7 クール ×2園	その日の遊びのイメージがもてるような絵本を選んだり、毎回いろいろな絵本を読むことで子どもの興味・関心が広がった。 (平成23年度で終了予定)	幼児教育支援センターたんぼぼ
28	図書貸出	幼児教育支援センターたんぼぼに図書スペースを設置し、フリースペースの参加者や子育て中の保護者を対象に絵本や子育てに関する図書の貸出を行う。	継続	○	貸出人数 / 貸出冊数	189人 536冊	新しい絵本を購入することで利用者、冊数が大幅にふえた。お気に入りの絵本のシリーズのリクエストがあり、何度も借りる親子もいる。	幼児教育支援センターたんぼぼ
29	情報相談	子育てに関する相談の中で絵本にふれる機会を提供する。	継続	○	子育てに関する情報相談	3件	利用案内や講座案内の折に絵本を案内する機会がある。	すてっぷ

NO.	事業名	事業内容	区分	状況	指標	平成22年度(2010年)実績		関係部局・団体
						実績	実施状況と課題	
30	お父さん・おじいさんへの働きかけ	お父さんへの家事参加を働きかける講座に、絵本を紹介し親子での利用につなげる。	継続	○	リスト掲載冊数 / 配布枚数	テーマ展示リスト30冊・155枚	テーマ展示「家族の中のお父さん」リスト作成。お父さん・おじいさんが参加される講座に絵本や児童書なども設置し、手に取る機会を設けている。子や孫と来室する対象者へ今後も積極的に働きかけたい。	すてっぷ
・親子でDVDを見ている。・父子で利用している。								
31	お父さん・おじいさんへの働きかけ	お父さん、おじいさんなどに絵本への関心を広める機会の提供を行う	継続	○	参加人数	千里100人	「みんなあつまれわくわくランド」の絵本コーナー内に「お父さんと楽しむ絵本」を展示した。すこやかプラザ会場には岡岡図書館、千里体育館には千里図書館が参加した。千里図書館では図書館利用者の要望もあり、「えほんにたっち!」「おはなしワールド」をお父さんも参加しやすい土・日開催にした。	市立図書館
32	子育てグループ活動への支援	公民館グループで活動する子育てサークルに子どもの読書に関する講座や情報の提供を行う。	継続	○			図書館のリサイクル本を活用した、図書コーナーを中央公民館のロビーに設置している	公民館
33	啓発講座	子どもの読書の楽しさや大切さを伝える講座を開催する。	継続	□			「祖父の子育て、パパの子育て、イクメン講座」で、絵本の読み聞かせを取り上げることを検討中。	すてっぷ
34	保護者向け講座の開催	子どもの読書の楽しさや大切さを伝える講座を開催する。	継続	○	参加人数	14人	読み聞かせにチャレンジ!、3・4・5才児と、その保護者を対象として、現役大学生による楽しい読み聞かせについての学習機会を提供した。	公民館
35	おはなし会	子どもたちの身近な施設でおはなし会を開催し、本やおはなしを楽しむ機会をつくる。	継続	○	回数 / 参加人数	24回 910名参加	すてっぷ登録団体「おはなし会とつこ」が、月に2回(第1、3月曜日)すてっぷロビーのキッズスペースで、親子を対象とした「絵本の読み聞かせと手あそび」を実施。絵本と手あそびを通して、豊かな感性を持った子どもの育成を目指し、親子のふれあいの場とする。参加人数を増やすこと、読み手の育成が課題である。	すてっぷ
		子どもたちが生活の一部として利用している児童館の中でおはなし会を開き、本やお話に親しむ機会ときっかけを作っていく。	継続	○	回数 / 参加人数	10回 89人	ロビーや部屋を会場にしながら、お話の前に集まる子どもだけでなく、他の遊びをしている子どもの視界にも届く場所にておはなし会をしてみる。小学生は学年が上がるにつれ「読んでもらう」は自分のペースでは進まないで面倒くさい様子もあるが、視界に入ること興味をもち、よってくる子どもや遠めでも覗いている姿もある。	豊中人権まちづくりセンター
		子どもたちの身近な施設でおはなし会を開催し、本やおはなしを楽しむ機会をつくる。	継続	○	回数 / 参加人数	87回 554人	毎週水・金3:00から4:00まで絵本の紹介と工作を実施。また年3回、おはなしポケットによるおはなし会を実施。おはなし会のあとにはおりがみを楽しむ会も実施している。利用者のニーズに応じた内容を更に検討していきたい。	庄内少年文化館

NO.	事業名	事業内容	区分	状況	指標	平成22年度(2010年)実績		関係部局・団体
						実績	実施状況と課題	
35	おはなし会	放課後子どもクラブの活動の一環として、ボランティアによるおはなし会を開催し、本やおはなしを楽しむ機会をつくる。	継続	○	回数 / 参加人数	335回 14,885人	放課後子どもクラブで定期的に「おはなしボランティアポケット」などによるおはなし会を開催し、本やおはなしを楽しむ機会をつくる。	放課後子どもクラブチーム
36	図書館訪問	放課後子どもクラブの校外活動の一環として、図書館を訪問し、子どもたちが本を読んだり図書館が開催するおはなし会に参加しておはなしに親しむ機会をつくる。	継続	○			校外活動として図書館を訪問している。一度、訪問すると、子どもも喜び、訪問していないクラブにも利用の促進を図りたい。	放課後子どもクラブチーム
37	図書リストの配布や子どもへの学習相談	男女共同参画及び自己尊重の心を育むための図書リストを作成し、配布する。また、学校司書や教員を通してのレファレンスに応じる。	継続	○	リスト掲載延べ冊数 図書館 / 小中学校等配布枚数	夏休みリスト13冊・1,000枚	夏休みの読書のためのリストを作成し配布する。来館者にも配布し、参考資料になっている。	○すてっぷ小・中学校関係施設

子どもの本や読書に関する情報提供

NO.	事業名	事業内容	区分	状況	指標	平成22年度(2010年)実績		関係部局・団体
						実績	実施状況と課題	
38	子育て教室	就学前児童の保護者や子育てに関心を持つ人が、必要な知識を学習する機会に子どもの読書に関する情報の提供を行う。	継続	○	参加人数	14人	読み聞かせにチャレンジ!、3・4・5才児と、その保護者を対象として、現役大学生による楽しい読み聞かせについての学習機会を提供した	公民館

読書環境の整備

NO.	事業名	事業内容	区分	状況	指標	平成22年度(2010年)実績		関係部局・団体
						実績	実施状況と課題	
39	絵本コーナーの充実	保健センター等に絵本コーナーを開設し、健診時に親子で絵本とふれあう機会を提供する。	継続	○	設置箇所冊数	3カ所	中部保健センター、庄内保健センター、千里保健センターに設置。健診やクリニックの待ち時間に利用している姿が多い。	健康支援室 市立図書館
40	絵本コーナーの充実	絵本コーナーの充実、貸出等、親子がやりとりしながら絵本に親しめる環境をより充実する。	継続	○	絵本の取り替え回数	随時	玄関や部屋のコーナーなど子ども用の机やイスを設置、じっくりと絵本を読めるように絵本がより身近にある環境設定をおこなった。図書館が身近にあるセンターでは絵本の貸出の利用者は少ない。地域性もあるが、絵本の選定入れ替えなど計画的に行っている。《家でもまた読んでほしい》と思う絵本を子どもが自分でじっくりと選んで借りる場になってきている。	子育て支援センター
41	読書環境の充実	すてっぷの情報ライブラリーの絵本や児童書を充実し、大人も子どもも身近に絵本と親しむことができるようにする。	継続	○	おはなし会実施回数 / 参加延べ人数	24回 910名 参加	情報ライブラリーでは児童書コーナーを設けている。また、夏休み期間には特別展示で、児童書やブックリストを並べて、大人と子どもと一緒に絵本にふれる機会をつくっている。すてっぷ登録団体「おはなし会とっこ」が、月に2回(第1、3月曜日)すてっぷロビーのキッズスペースで、親子を対象とした「絵本の読み聞かせと手あそび」を実施。絵本と手あそびを通して、豊かな感性を持った子どもの育成を目指し、親子のふれあいの場とする。参加人数を増やすこと、読み手の育成が課題である。	すてっぷ
42	絵本コーナーの充実	図書館と連携し、公民館のロビーや保育室にある絵本コーナーを充実する。	継続	○	蔵書冊数	123冊	・公民館で活動をする保護者と一緒に来た子どもが、自ら絵本を見つけて、嬉しそうにページを広げたり、保護者のところに持って行って、読んでもらっている場面を見かける ・絵本棚は、子どもの目線の高さに設置し、興味が持てるようにするとともに、自分で手軽に取り出せるようにしている	公民館

NO.	事業名	事業内容	区分	状況	指標	平成22年度(2010年)実績		関係部局・団体
						実績	実施状況と課題	
43	図書室・図書コーナーの充実、本のある居場所づくり、地域の子どもと保護者への取り組み	これまで分類上は「図書室・図書コーナーの充実」のみであったが、子育て交流広場での読み聞かせ、絵本を通して子育てを振り返るおはなし会、友達との調べ物、物語から自分を振り返る人権学習など本に関わった取組みが増えているので、これらを前面に出して読書への関心へとつないでいく。	継続	○	館利用人数	館利用 59,933人、ビデオ77人、CD22人、図書58人	● 図書館が近いので貸出より居場所としての図書室利用が多い、スペースが小さく貸切状態になるので気兼ねなく読み聞かせをする親子が多い。 ● 小学生は、調べ物やプログラムに沿った学習に図書をよく利用した。パソコンも有るので迷わずインターネットを選択する子もいるが、本で調べる経験を勤めている。 ● 蛭池のふれあい月間に蛭池図書館・公民館と「電車がつなぐ人とまち」を昨年度から継続実施。模型操作と電車絵本のコーナー、映画上映と原作本の紹介展示コーナーも設けた。 ※読書直結のプログラムは別項目に記載。	蛭池人権まちづくりセンター 児童グループ
	図書室・図書コーナーの充実、本場のある居場所づくり、地域の子どもと保護者への取り組み	団体貸出の利用と保護者等からの絵本のリサイクルにより、図書コーナーの充実を図る。また、本に囲まれた環境の中で学習室としても活用を増やすなど、子どもが本を身近に感じる環境作りをしていくために壁装飾の取替えを学期ごとに行うことを企画していく。	継続	○	館利用人数	100,590人	児童館「本のへや(図書室)」に、小学生向けにジャンル別やタイトルの50音順で絵本を並べている。日頃は宿題や学習部屋に使っている子どもが多いが、勉強の合間に絵本や読み物を手にとり読む姿は多い。また親子のお部屋「うさぎハウス」にも絵本をおき、両部屋で子どもに読み聞かせる保護者の姿も見られる。本を借りたいと希望する子どもがいれば、随時貸出も行っている。	豊中人権まちづくりセンター
	図書室・図書コーナーの充実	資料の新規購入や団体貸出の利用により、各施設の図書室や図書コーナーを充実し、子どもが身近に本と親しむことができる環境を整備する。	継続	○	児童書所蔵冊数 / 団体貸出	1,964冊、57冊	新着絵本を集めて展示を工夫する他、子ども視点の配架によって、子どもが手に取った本を大人に見せに行き、一緒に読んで楽しんでいる様子。今後も継続的に子どもが身近に本と親しむことができる環境を整備していく。	すてっぷ
	図書室・図書コーナーの充実	資料の新規購入や団体貸出の利用、また一般市民からの寄贈本やリサイクル本などの活用により図書コーナーの充実を図る。また、子どもが身近に本と親しむことができる環境づくりのために表示板の作成や壁面構成に努めている。	継続	○	貸出人数 / 貸出冊数	2,186人 6,284冊	館で活動する小・中学生を主に、一般利用者にも貸出を行っている。利用時間は9:30~17:00 資料購入冊数は年間200冊程度。資料費の限られる中、今後も寄贈本やリサイクル本を活用していきたい。	庄内少年文化館
	図書室・図書コーナーの充実	資料の新規購入や団体貸出の利用により、放課後子どもクラブなど各施設の図書室や図書コーナーを充実し、子どもが身近に本と親しむことができる環境を整備する。	継続	○	貸出校数 / 貸出冊数	40校 11,498冊	資料の新規購入と合わせて子どもたちの身近な場所に本がある環境となっている。	放課後子どもクラブチーム

NO.	事業名	事業内容	区分	状況	指標	平成22年度(2010年)実績		関係部局・団体
						実績	実施状況と課題	
44	図書コーナーの充実	男女共同参画及び自己尊重の心を育むことに関する図書や絵本を充実する。	継続	○	児童書購入数	55冊	継続して購入した結果、利用者の関心も増え利用されている。今後も継続的に男女共同参画及び自己尊重の心を育むことに関する資料を充実していく。	すてっぷ
45	見学・交流会	図書室や図書コーナーの充実と情報交流のため保育所(園)、幼稚園や他の施設の訪問や見学を行い、図書館サービスに関する情報提供を行う中で、必要な支援、連携を実施する。	継続	○			地域交流会の中で小中学校の学校図書館、すこやかプラザ、すてっぷやとよなか国際交流センターなどの施設を見学し市内の子ども読書環境の状況を確認する機会とした。また民間保育園および私立幼稚園の職員を対象とした絵本講座を開催し、団体貸出のサービスの案内などを実施した。	市立図書館
46	本のある居場所づくり	「青年の家いぶき」や図書館などの公共施設に、くつろいで読書や学習ができるスペースを提供する。	継続	○			週2回(水・土 13時～17時)開室、小学生や親子連れで利用する姿が多く見られる。ロビースペースは、特に長期休暇中に小・中・高校生がロビーで学習する姿が多くみられる。子どもを膝に載せての読み聞かせなどふれあいながら図書に親しめる空間づくりや、ロビー机上に新着・推薦本の紹介、図書室へ誘導するPRなど、あるものを活用する工夫が課題である。	青少年育成課 市立図書館

子ども読書活動におけるネットワークづくりと情報交流の推進

子ども読書活動ボランティアや市民活動団体への支援の充実

NO.	事業名	事業内容	区分	状況	指標	平成22年度(2010年)実績		関係部局・団体
						実績	実施状況と課題	
47	子ども読書活動ボランティアの育成・支援	子育て中の保護者が、就学前の親子を対象に、絵本の読み聞かせやパネルシアター、紙芝居などを行うボランティア活動を育成・支援する。	継続	○	回数	103回	5カ所の地域支援センターで立ち上がったボランティアグループで、年に1作品ペープサートづくりをする。毎月1回定例会を持って作品作りをするなど活動が継続広がってきている。それぞれの地域の状況に合わせてサロンで年4回、保育所の誕生会や地域の事業などで公演活動・発表する機会を持っている。地域の親子に向けて、絵本の読み聞かせをする機会も増えている。	子育て支援センター
48	出前おはなし会	市民団体・子育てグループの子育て支援としてすてっぷの登録団体が読み聞かせを実施する。	継続	□	回数		すてっぷ登録団体「おはなし会とっこ」がすてっぷ主催出張講座(千里公民館)のなかで、出前おはなし会を実施することを検討中。	すてっぷ
49	研修の機会の提供	登録団体の活動を支援するため学習の機会を提供する。	継続	□	回数/参加延べ人数		すてっぷ登録団体「おはなし会とっこ」を助成金で支援。プロの読み手を講師に招き、絵本の読み方を学習する講座の開催を検討中。	すてっぷ
50	情報の提供	読書活動に関する情報やおはなしボランティアの活動場所の提供を行う。	継続	○		高校生3名	「英語と親しむつどい」の中で、高校生による大型絵本を用いた、英語の読み聞かせプログラムを実施。高校生ボランティアの活動の場を提供した。	公民館

子どもに関わる大人への啓発と研修

NO.	事業名	事業内容	区分	状況	指標	平成22年度(2010年)実績		関係部局・団体
						実績	実施状況と課題	
51	職員研修	子どもに関わる施設の職員が、子どもの育ちの中の読書の大切さを理解するための研修を行う。 [158をご参照ください]	継続	○	講座実施回数	3回	高川図書館で人権講演会として、文字を読む読書をするのが難しい人のために開発された「LLブック」(スウェーデン語で「やさしく読める本」)についての講演会を実施した。さらに講演会終了後、配布されたレジメなどを関連する施設や学校に送付し、情報共有の機会とした。また市立図書館の人権研修では教育センターの臨床心理士による発達障害など支援を要する子ども達に関する講座を開催した。	市立図書館 職員研修所 関係施設
52	指導員研修会	放課後こどもクラブのおはなし会活動をより充実したものにするために、指導員に対して読書活動の意義を伝え、理解を深める取り組みを行う。	継続	□	実施回数 / 参加人数	0回	研修会を実施できなかったため、次年度は是非とも実施したい。	子育て支援課 市立図書館

No	事業名	事業内容	区分	状況	指標	実績	実施状況と課題	担当部局・団体
追加	読書直結プログラム	読書と直結した児童館プログラムの中で図書に親しむ機会を創る。	新規	○	開催回数 / 人数	「本を楽しもう」4回 121人、 「絵本クラブ」3回 64人、 「いないいないばあ交流」3回 141人 「おはなし会」10回 313人	<ul style="list-style-type: none"> ●夏休みプログラムに、低学年は「本を楽しもう」で絵本の登場人物の個性を味わい、声優マイクの前で朗読した。当日絵本を画面に映す係やミキサー係も自主的に分担したので、より多様な役割を設ければよかった。高学年は「絵本クラブ」で物語を読んで自分だったらどう思うかなど気持ちや感想を話し合った。絵本作りまでを目標にしたが時間が不足した。 ●乳幼児親子と小学生の「いないいないばあ交流」では乳幼児親子に向けて、紙芝居を読む。回を重ねるごとに緊張がほぐれた。 ●子育て交流広場の「おはなし会」では絵本から劇ごっこにつないだり、子育てを振り返ったりした。 	蛭池人権まちづくりセンター 児童グループ